

## ユニーク税

幕別町立幕別中学校 三年 渡邊 正宗

この作文を書くにあたって、今まであまり触れてこなかった「税金」についてたくさん調べてみた。しかし調べれば調べるほど、「法人税」、「市町村民税」、「地方交付税交付金」など聞いたことのない、意味のわからない言葉ばかりが続いていた。しかしそんな中でも、見たことのある文字、目を引くものがあつた。それは、犬税（ペット税）というものだ。

犬税とはドイツやオーストリア、スイスなどで存在する、犬を飼っている家庭に税金を課す制度のことだ。では、なぜこのような税金があるのだろうか。それは、昔のドイツでは「犬の多頭飼育」が発生していたため、殺処分を避けよう、飼うことにしつかりと責任を持たせよう、そんな思いからだつたらしい。現在、ドイツでは一頭犬を飼うことで、百二十ユーロ、日本円で約二万円ものお金を年に一度、犬税として納めることが定められている。そのお金は、犬の糞の清掃など街をきれいにすることに使われているという。ドイツの人々は犬が大好きだから、犬を思っているからこそ、犬税というものに反対しないのだ。つまり、犬税があることで街はきれいになり、また人々もより犬を大切にするようになったということがわかつた。他にもハンガリーでは国民の肥満防止を目的とする「ポテトチップス税」が存在したり、イギリスでは都市部の渋滞を解消させるため、「渋滞税」が課されているなど、固い税金だけでなく、ユニークな税も世界中にあふれていることを、僕は調べてみて知ることができた。今までは、「税金は、人々の安全や便利な暮らしを成り立たせるためにある」と知っていたても難しい言葉ばかりで「税金」というものの実感がなくどこか避けていた。しかし、今回、ユニークな税を深く調べてみると税が課されたときの人々の気持ち、税を課す政府の気持ち、そういったことを想像して、身近に簡単に「税金」を考えることができ、もつともつと税金を知りたくなつた。「税金」は避けるものではなく、とても面白いものだ、そう心に新しく刻まれたのだ。